

研究開発促進委員会報告

渡辺隆紀氏は平成30・31年度研究開発班終了後、研究成果について「Ultrasound in Med. & Biol., Vol. 47, No. 11, pp. 3111-3121, 2021」に掲載されました。その和文抄録を掲載致します。

研究開発促進委員会
委員長 畠 二郎

「乳癌の診断におけるBモード、カラードプラおよびエラストグラフィの有用性-1351例の乳房充実性腫瘍を対象としたCD-CONFIRM多施設研究-」(Open access論文)

渡辺 隆紀¹ 山口 拓洋² 奥野 敏隆³ 今野佐智代⁴ 高木 理恵⁵ 佐藤 恵美⁶
鶴岡 雅彦⁷ 白井 秀明⁸ 小川 ゆかり⁹ 坂 佳奈子¹⁰ 藤本 泰久¹¹ 広利 浩一¹²
渡辺 良二¹³ 森田 孝子¹⁴

¹ 仙台医療センター乳腺外科、² 東北大学病院臨床試験データセンター、³ 西神戸医療センター乳腺外科、⁴ 獨協医科大学病院超音波センター、⁵ 社会医療法人博愛会相良病院臨床検査部生理機能検査科、⁶ 北海道大学病院医療技術部 放射線部門/超音波センター、⁷ 守谷慶友病院、⁸ 札幌ことに乳腺クリニック、⁹ 亀田総合病院 超音波検査室、¹⁰ 東京都予防医学協会、¹¹ 吹田徳洲会病院乳腺外科、¹² 兵庫県立がんセンター乳腺外科、¹³ 糸島医師会病院乳腺センター、¹⁴ 国立病院機構名古屋医療センター乳腺外科

乳房の良性病変と悪性病変の鑑別におけるカラードプラ超音波(CD)の有用性については、いまだに意見が分かれています。我々の先行研究である日本乳腺甲状腺超音波学会(JABTS)のBC-04研究(悪性:839例, 良性:569例)において、CDは乳癌の診断に有用であることが判明し、CD診断基準を作成した。今回の研究(CD-CONFIRM研究)の第一の目的は、我々が作成したCD診断基準の有用性を評価することある。第2の目的は、CDとエラストグラフィの関係を評価することである。13施設から登録された悪

性639例、良性712例の乳房腫瘍の超音波画像を評価した。B-modeのみの感度は非常に高く、CDでは有意に改善されなかったが、特異度はCDで有意に改善された(61.2%→69.2%, $p < 0.0001$)。さらに、B-modeとCDを組み合わせた特異度は、エラストグラフィを加えることでさらに向上した(72.8%→79.0%, $p < 0.0001$)。本研究では、我々が作成したCDの診断基準は有用であり、またCDとエラストグラフィは独立していることがわかった。

(<https://doi.org/10.1016/j.ultrasmedbio.2021.07.009>)